

平成 28 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 29 年 2 月 7 日

学 長 殿

所属部局・職名 人間発達文化学類・院生

申 請 者 名 松井香奈

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営・ 学会参加) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事 業 名	学会参加等助成 (②海外学会参加助成) 2016 年第 5 回村上春樹国際シンポジウム
事業実施期間	平成 28 年 5 月 28 日 ～ 平成 28 年 5 月 30 日
成 果 の 概 要	<p>国境と民族を越えて受容されている日本の作家・村上春樹に関連した研究のグローバルな学術交流と研究成果を図り、学際的な視野で村上春樹を捉える淡江大学村上春樹研究センター主催第 5 回村上春樹国際学術研究会にて、研究発表会の司会・コメンテーターと研究成果発表を行った。</p> <p>日本・台湾・韓国・中国といったアジア圏だけでなく、アメリカやヨーロッパの日本文学研究者、英語・中国語・台湾語・韓国語等への村上作品翻訳者、国内外の文芸評論家が一堂に会する本国際研究会では、初めての国際色の強い学術的議論の末席に加わることができた。</p> <p>研究発表は、2 日目午前中の分科会会場にて、「「七番目の男」の〈風景画〉について」と題し、高校国語科教材としても定着しつつある本作品の解釈をめぐる口頭発表を行った。従来、怪異や恐怖といった点にばかり議論の焦点が当てられた本小説であるが、その回想形式と額縁構造に着目し、回想内容が回想の記述を浸蝕するという村上春樹の小説技術が駆使されているテキストであると論じた。</p> <p>本発表について、台湾の研究者から同時期の他作品との関連について質問が出された。また懇親会および休憩時間には、文芸批評家から本作の時間の隔たりについての示唆をいただいた。その他、研究会の至るところで、今後の研究について貴重なアドバイスを賜うことができた。</p> <p>また、基調講演と 2 つのシンポジウムに参加し、諸国間の翻訳事業や事情の違い、世界文学と日本文学の問題などについても最先端の村上春樹研究ひいては日本近代文学研究の動向と方法とを学ぶことができた。</p>